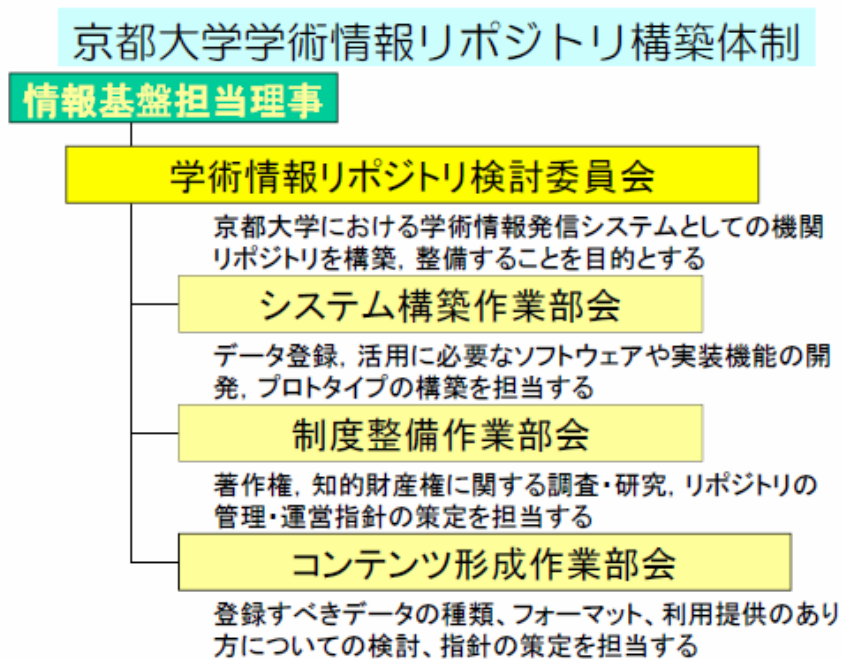


(1) 取り組み体制の整備

CSI 委託事業による機関リポジトリ構築を全学的な取り組みと位置付けるために、役員会、部局長会議等の了承のもとに、構築の推進母体とする体制を設けた。

検討委員会および作業部会の委員には、研究科、研究所、センターなどの多様な組織形態および自然系・人文社会系など分野のバランスも考慮して、それぞれの特長性・専門性による意見を反映できる構成とした。このほか、情報設備等の関係で情報環境機構、評価の関連で企画部、研究者情報の関連で研究協力部なども作業部会の委員に加え、リポジトリに関連する事務部門においても連携をはかりながら全体的な取り組みが可能な体制とした。



(2) 事務体制

情報管理課電子情報掛を担当掛とした。また、このプロジェクトに専念する人材を図書館職員の中から1名確保し、プロトタイプシステムの開発にあたる工学研究科附属情報センターに常駐させて、システム構築に取り組ませた。図書館職員のIT能力、書誌作成能力、メタデータ作成能力などがシステム整備とデータの作成及び品質管理には必要であると考えたためである。

この他、システムの評価・構築にあたっては、工学研究科附属情報センターに所属する技術職員の協力を得た。

(3) ソフトウェアの選択

リポジトリシステムに関して、いくつかの商用システムおよびオープンソースソフトウェアを比較検討した結果、DSpaceを採用することに決定した。主として比較したソフトウェアEPrintsは採用機関も多く、システム構成が簡便だが、どちらかという
と単一システム(論文リポジトリなど) 向きであり、本学としては複合システム(様々なコミュニティ・コンテンツ種類) に向き、採用機関も多く、ユーザーコミュニティが活発なDSpaceを選んだ。導入にあたっては、システムの日本語化や初期立ち上げのサポートといった点を考慮し、ソラン株式会社が提供する「DSpace日本語版スタートパッケージ」を採用した。

DSpace利用の概念図



DSpace スタートページ



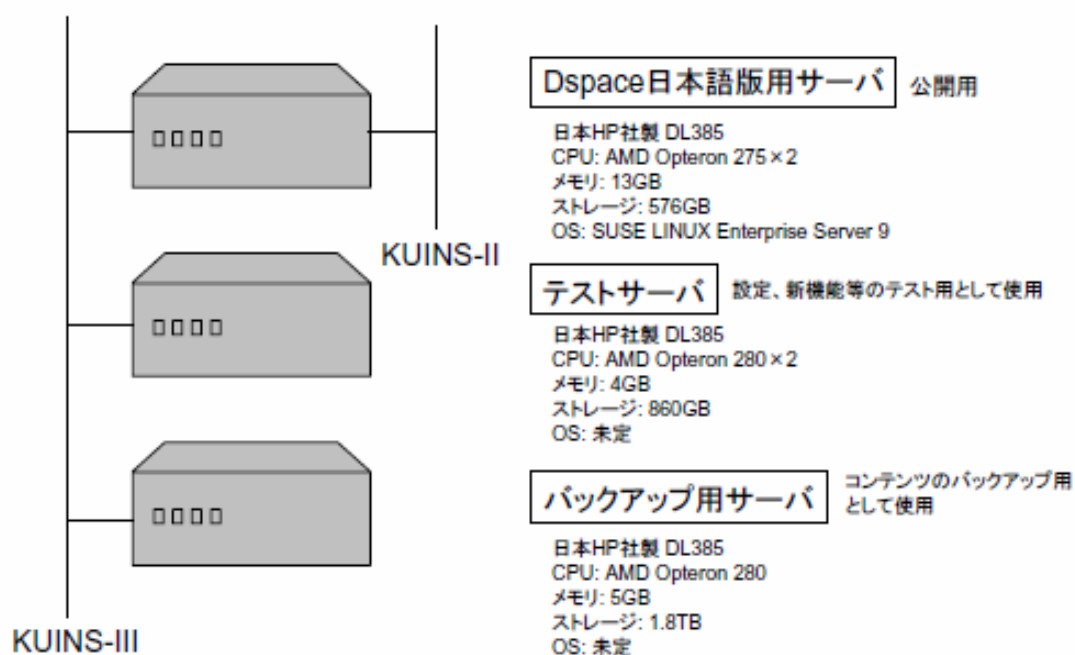
(4) プロトタイプシステムの構築

研究業績集としてこれまで刊行していた工学研究科の「工学研究」のオンラインシステム化への取り組みとタイアップすることによって、工学研究科に所属する教員の研究成果データベースとの連携を図ることがリポジトリ登録を推進することに繋がると判断し、研究成果データベースの登録が簡便な refbase(ドイツの極地研究所が開発したオープンソースの Web ベース文献管理ソフトウェア)を導入した。

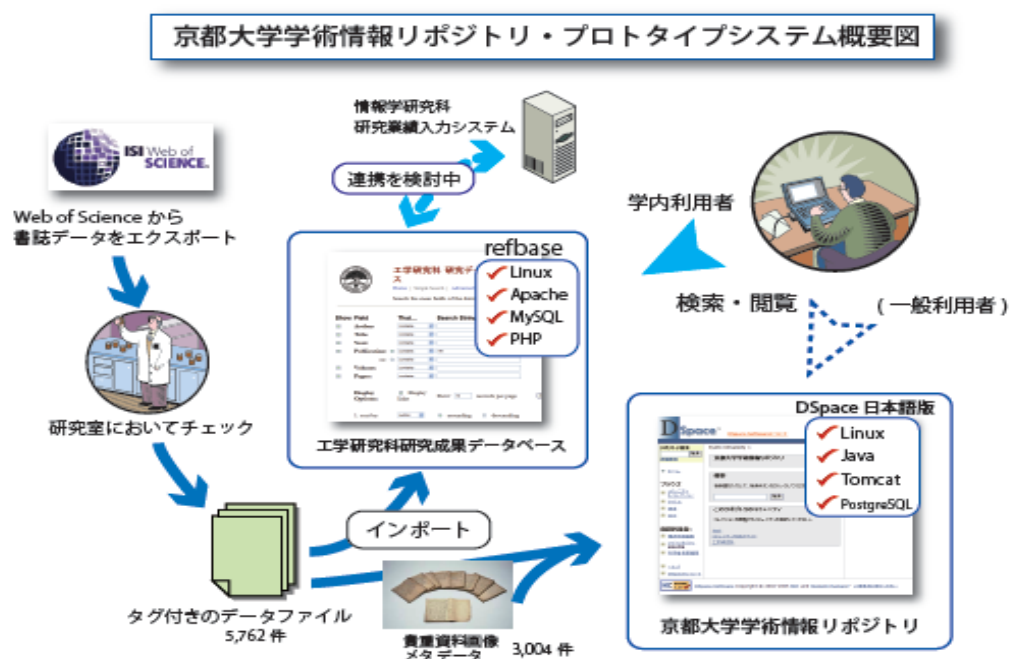
工学研究科研究成果データベース構築のため、アルバイトを雇用して引用文献データベース Web of Science から 2000 年以降の論文を対象に工学研究科の教員のデータを検索し、出力データについて研究室ごとにデータのチェックを行い、修正・加工した。これで得られた 5,762 件のデータを元に、DOI をも付与し、データベースのプロトタイプを作成し、公開に向け作業中である。なお、今後 Web of Science 以外のデータを追加できるシステムが必須である。さらに、情報学研究科が外部評価の関係から研究業績入力システムの開発を進めていたため、こちらのシステムについてもリポジトリシステムとの効果的な連携について協議・検討し、データベースの構造についてテストを実施した。

構築したリポジトリのプロトタイプシステムは、工学研究科附属情報センターに設置し、運用テスト等を行い、平成 18 年 10 月 1 日の運用開始に向けて準備中である。

京都大学学術情報リポジトリ・機器構成図



(5) プロトタイプシステムの概要図



(6) 工学研究科の研究成果データベースの画面展開例

工学研究科研究成果データベース・ プロトタイプ画面例

検索画面

検索結果一覧

DOIを利用した、電子ジャーナルへのリンク

本件に関する連絡先

京都大学附属図書館情報管理課電子情報掛

E-mail goto@kulib.kyoto-u.ac.jp